



委員 (一社)日本ヒーブ協議会 鈴木 聖子 代表理事

## 働く女性の未来像提言へ

日本ヒーブ協議会の名称はHIEB (Home Economists In Business) に由来します。企業内家政学士と訳され、1923年に米国で活動が始まりました。日本には70年代に導入され、当協議会は会員を家政学士に限らず、企業の消費者関連部門などで働く女性の能力向上を目的に78年に設立されました。私たちは2024年度より「持続可能な社会を共創する」をテーマに生活者と歩む持続可能な社会の実現に向けた活動を、会員一人ひとりが社会変化に柔軟に対応できる力を身に付け、新たな社会課題の解決に貢献できる活動を重ねています。

主な活動は月例研究会で25年も企業や行政などより講師を迎え、顧客対応や生活者共創、サステイナビリティーなどをテーマに講演会を開催しました。企業見学会も開き、イケアジャパンや明治安田生命の「コミュニケーションセンター」で顧客対応の様子を観察しました。

8月には視覚障害者の案内で光が遮断された闇の中を歩いたり、人やモノに触れたりする「ブリス・イン・サ・ダーク」を体験しました。座学だけでなく、体験型プログラムも月例研究会のメニューに取り入れ、会員の知見を深めました。

26年は1月には、ヒーブを歴史的に研究された北海道大学大学院経済学研究院の満園勇准教授を招き、「戦後史のなかの日本ヒーブ協議会」と題する講演会を開催します。

4月には「働く女性のミソブック」を刊行します。ヒーブが1986年〜2013年に定期的に実施した「働く女性と暮らしの調査」をベースに、これからの働き方やライフスタイルの未来像について発信する予定です。

生活者を巡る環境は大きく変わり、これまで以上に社会環境の変化への適応力が求められる中、「持続可能な社会を共創する」ことの重要性や使命感を改めて実感します。

多様な業種・部門に属する会員が集い、異業種間交流から生み出す相乗効果を強みとし、私たちは本年も生活者視点と経営視点の双方を発揮し、両者の懸け橋になれるよう活動してまいります。